

研修名 人権Ⅱ

平成30年7月6日（金）10:00～12:30

講演 「人権が守られる環境づくり」

講師 佛教大学 原 清治 氏

1 講演要旨

1) 前置

大雨特別警報が発令されていた日であるので、「講演中の出入りはOKです。」から始まる。黙って出て行くのではなく、前もって通告し、合図をして出ることが大切。コミュニケーション力をつけることが信頼関係の構築に繋がる。

2) 今日の大学生の実態

人とどう付き合えば良いのかわからない。

- ・人からの「見られ感」を気にし、前につい立を設置した「一人掛け個室 BOX 席」で食事をする。(以前はトイレの中で食事する「便所飯」であった。)
- ・人間関係を内と外に分ける。(スマホに入っている人以外は排除する)

3) 社会と教育現場の変遷

①学校教育と家庭教育のバランス

昔は良いバランスがとれていたが、現在は学校教育に比重が置かれている。

②いじめられ感のある子の居場所

25年前、トイレに閉じこもる。→職員室や保健室に助けを求める。

現在は図書室となる(人と話さなくて良い場所だから)。

③登校するが教室に入れないう子(プチ不登校)の増加

親の要求が高く、自尊感情が育たず自信を喪失する。

小規模集団から急に大きな集団に入ったことによる疎外感

④現在はいじめといじりの境界が曖昧で、善意の通告者(チクリ)がない。

⑤他者の目に晒されることへの恐怖感

⑥目の前の価値観に合わせてしまう二面性を持った子の増加

ある先生に「大丈夫です」と言っても、別の先生に「本当に大丈夫か」と聞かれると「不安です」と言う。

⑦他者と繋がる力が弱い子に同調圧力をかけすぎて、「つながり過剰症候群」に陥ってしる子の増加

4) 今日の子ども達にできること

①子どもの学力はどのように形成されるのか

- ・ 遺伝的要素（影響力は小さい） ・ 友人との関係 ・ 親の学歴、職業
- ・ 家庭のもつ文化—大人の言葉力が重要
- ・ 子どもに対する教育関心の高さ - 「今日は何したの？」と聞く

②これからの社会は親の思いや願いが子どもの将来を決定していく。しかし、親が先回りし、御膳立てした道を進ませるのはどうか？→自立心が育たない→求められるのは自分で考える力である。

③小さい頃の「嬉しい」「よかったね」という身近な大人との喜び・幸せの共有が人権を育てる。

④家庭や園でのルールを大人も守る。

⑤皆の前で認められると自尊感情が高くなる→自分自身が友達の良い所探しをする→時代を形成していく力となる。

⑥小さい頃から大きな集団での経験をさせる。

5) 感想

第一印象から親しみやすく、笑いもありつつ、重要なことは強い口調で話され、もっと聴いていたいと思える講演でした。おりしも特別警報が出ている日でしたが、「携帯電話 OK, 出入りも自由に」の言葉に不安感が和らぎました。前もって通告し合図して出て行くという「コミュニケーション力が信頼関係につながると言われたことが心に残り、終わってみるとこれが一番のキーワードだと思いました。今の大学生の実態は、私の予想を超えることばかりでした。まさに私は『石器人』、頭の中が凝り固まってカチコチだと反省しました。純白で柔軟な子どもたちと日々触れ合っているのだから、これではいけない！と感じました。原先生のように柔らかく小さな変化にも気づける目をもって保育していきたいです。今の社会にもっと敏感になりつつ、昔ながらのわらべうたや言葉遊びも大切に、子ども達と心通う楽しい時を積み重ねていきたいと思います。

ありがとうございました。

(記録 しいの木保育園 古園 陽子)

